

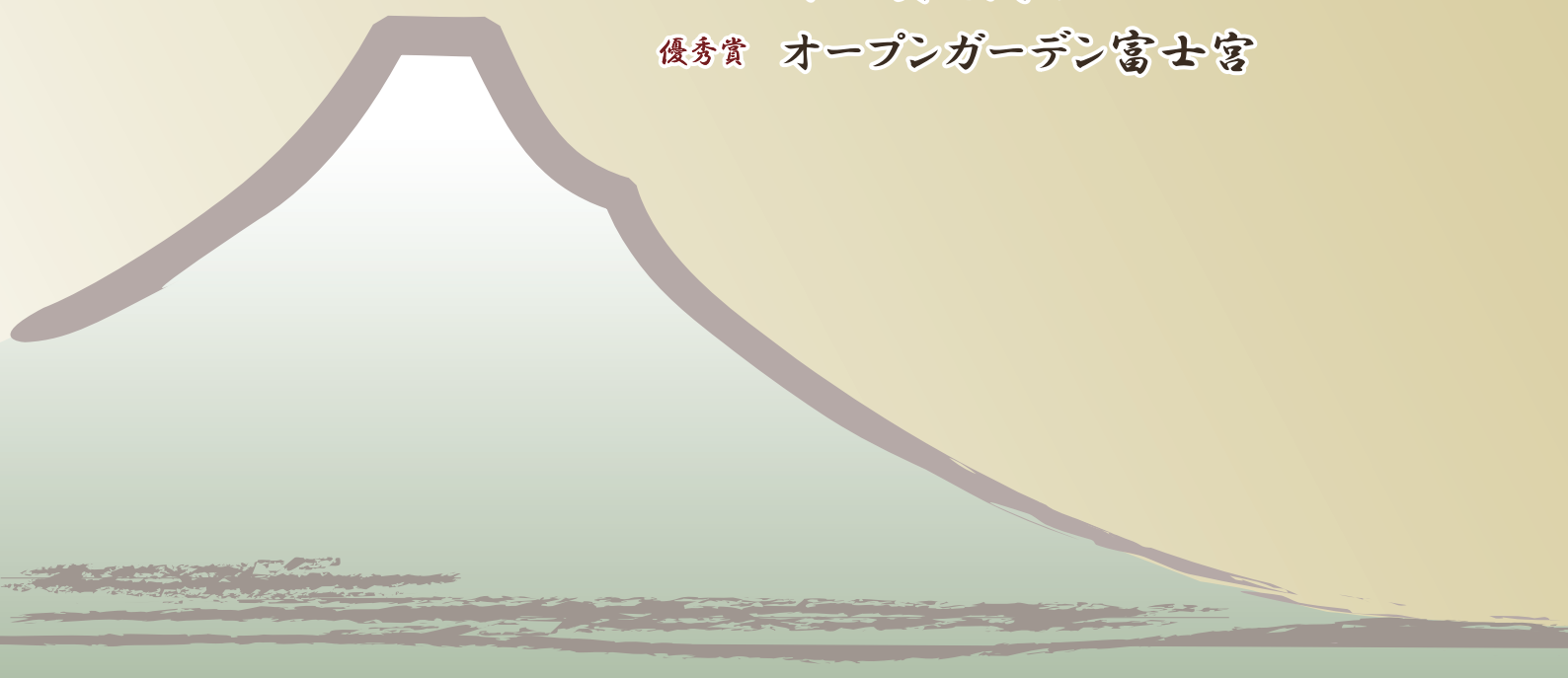
平成二十四年度

# 第三回 富士宮市景観賞

最優秀賞 沼久保地区水辺の楽校運営委員会

優秀賞 井之頭区民館

優秀賞 オープンガーデン富士宮



富士宮市  
平成25年2月6日



## 沼久保地区水辺の楽校運営委員会



### 特徴

沼久保区では、昭和54年頃に富士川河川敷にできたグラウンドを、芝刈りの実施やイチヨウ、サクラ、ミモザ等の植樹など、区民が力を合わせてボランティア精神で整備・管理してきました。この長年の実績と地元住民の働きかけにより、平成19年に区と国、市が連携し、平成22年8月に完成したものが沼久保地区水辺の楽校です。

沼久保地区水辺の楽校運営委員会は、水辺の楽校の整備開始時に沼久保区の有志で組織された団体で、積極的に景観づくり活動を行っています。整備された広場を維持するだけでなく、自主的に花壇づくりや植栽、美化活動などを行っています。

現在、富士市・富士宮市を中心に多くの人が集まり、憩いの場や教育の場として親しまれています。また、毎年8月15日は、沼久保夏祭りを開催し、蓬萊投げ松明や灯籠の設置などにより、魅力的な景観をつくりだしています。

地区の方々が大変熱心に活動しており、地道な努力を長く続けています。景観を保つことによって利用する人々の意識も高まり、美しい景観の維持につながっています。





## 優秀賞

## 井之頭区民館

## 特徴

井之頭区民館は、外観・内観デザインや間取りを猪之頭集落古来の住宅に由来し、建築されました。

外観は、東立面の大屋根の勾配は富士山の稜線に、壁面は雪を抱いた富士山に、南立面のベランダ屋根、中屋根、排煙屋根は天子山系の峰々に倣っています。内部については、構造材、造作材のほとんどを猪之頭区有林から切出したものを使用し、地産・地消に努めています。木材を使用することにより、シックハウス症候群対策や、断熱性、衝撃性、耐久性の向上に努めており、木の香りが漂った安らぎの空間を創出しています。

今後、新たな地域の拠点となり、地域の人々の交流や教育の場として広く活用されることが期待される施設です。



## データ

- 所在地 猪之頭215-1
- 基本設計者 赤池三七夫
- 実施設計者 U設計集団リキ建築設計室
- 建築概要
  - 敷地面積 989.82㎡
  - 建築面積 413.414㎡
  - 延床面積 382.01㎡
  - 構造 木造平屋建て



## 優秀賞

## オープンガーデン富士宮

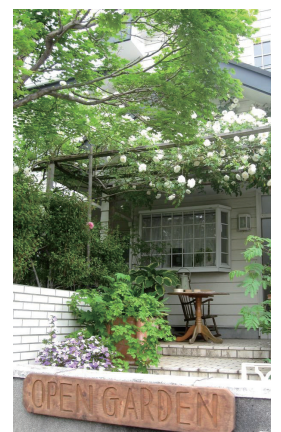
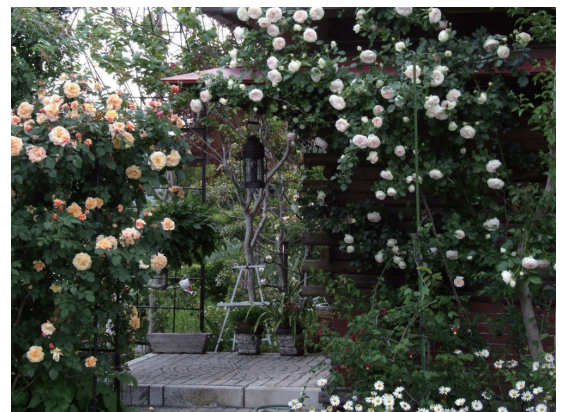
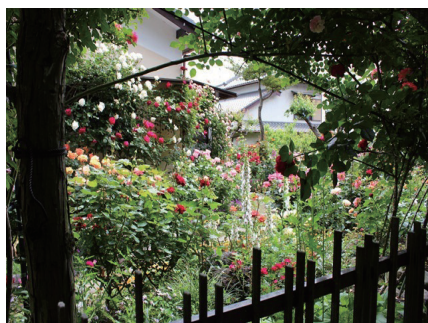
## 特徴

オープンガーデン富士宮は、花のある暮らしが好きで、きれいに咲かせた花を多くの方に見てもらいたいという人々が集まり、結成された団体です。参加者が丹精こめて育てた草花の庭を公開することで、人と人との交流の輪を広げ、花と緑にあふれた美しい癒しのまちづくりを目指しています。

多くの方々に庭を見て楽しんでもらうと同時に、オープンガーデンの活動を通じて富士宮市の地域活性化に貢献し、まち全体を明るくしていきたいという想いのもと、1軒1軒大変努力されており、今後、市全体へ活動が広がっていくことが期待されます。

## データ

- 所在地 市内17軒、1団体
- オープンガーデン富士宮ホームページ  
<http://blog.goo.ne.jp/opengardenn>



## 景観づくり活動部門



### アイグスタウン富士宮

まちなみ・うるおい部門

アイグスタウン富士宮は、富士山への眺望と桜道が特徴的な分譲住宅地です。既存の桜を残し、その桜の間をすり抜けるようにゆるやかなカーブのある開発道路を築造し、低木や地被類を新たに植栽しました。また、桜道にベンチを設けて人と緑が自然に触れ合える空間を創出し、さらに2箇所のクルドサックを設け、住民が集える場を設けています。

桜道に設置した庭園灯は、電線地中化を行うと共に環境配慮の観点から太陽光発電によるLED照明としています。

そのほか、ゴミ置き場の意匠や電柱の配置など、景観に配慮するとともに、建築協定などを締結し、住民の方々と景観を維持していく仕組みづくりを行っています。



### うるおい橋のある景観

まちなみ・うるおい部門

うるおい橋は、潤井川河川敷緑地の中央にかかる潤井川兩岸を結ぶ歩道橋です。一般公募で命名されたこの橋は、平成4年度に市制施行50周年記念事業の一環として建設されました。

うるおい橋の少し南に位置する青見橋から見た富士山が扇状に美しく見えます。これに加えて、川の流れ、つり橋のライン、両サイドの桜並木、遊歩道などが富士山と調和した景観を生み出しています。



### あさぎりフードパーク

富士山部門

平成24年4月1日にオープンした、「食と自然が融合した林の中の食品工房」をコンセプトとした施設です。

富士山を背景とした朝霧高原の5ヘクタールという広大な敷地の中に6社の食料品製造会社が一か所に集まり、食文化の拠点としての工房団地を形成しています。工房団地内の建物面積を全体面積の十数%に留め、富士山を代表する樹木である「ケヤキ、コナラ、ヒメシャラ、カエデ」などの落葉、広葉樹を植栽しています。

訪れる方々が雄大な富士山を満喫したいいただくことを目標としています。









### 第3回 富士宮市景観賞の募集について

#### 募集対象

- ◆市内で優れた景観の形成に貢献しているまちなみ、建築物、広場、水辺、森林、農地、活動団体等。
- ◆まちなみ・うるおい部門、富士山部門、景観づくり活動部門の3部門。
- ◆道路などの公共の場所から見ることで、人が何らかの関わりを持って形成されているもの。

#### 選考基準（募集部門）

##### まちなみ・うるおい部門

- ◇歴史、文化を残しているまちなみや、地域の個性と魅力が活かされているまちなみ、背景となる山や川等と調和しているまちなみ。
- ◇周囲の環境と調和して景観を引き立たせている建築物、新たな景観資源となるシンボリックな建築物。
- ◇緑化や広場の創出、水辺、森林、里山、屋敷林や農地の活用・保全などで、水と緑、自然を活かした魅力的な景観をつくりだしているもの。
- ◇まちかどや集落の小空間を利用してうるおいを創出しているもの。
- ◇周囲の環境と調和し、意匠・色彩・素材などの表現が優れた屋外広告物、工作物など。

##### 富士山部門

- ◇富士山を引き立たせる風景を創出して利用・管理されている農地や森林。
- ◇富士山の景観と調和した建築物、屋外広告物など。
- ◇富士山の景観を守り、育てていくための活動。

##### 景観づくり活動部門

- ◇良好な景観形成に寄与する活動や市民に親しまれているイベント、まちづくり活動などで、魅力的な景観をつくりだしているもの。また、景観上好ましくないものを取り除く活動。

#### 審査の経過

##### ◆応募

平成24年6月1日から7月31日までの応募期間内に8件の応募がありました。

##### ◆審査

平成24年12月4日に書類審査、現地視察を行い、最優秀賞1地区、優秀賞2地区を決定しました。

#### 表彰

- ◆最優秀賞、優秀賞に決定した施設などの所有者又は団体に賞状と記念品を授与。  
(対象が建築物等の場合には、設計者にも賞状を授与)
- ◆まちなみ等、表彰対象物の関係者が複数となる場合も総じて1件を表彰する。

#### 審査委員（富士宮市景観審議会委員）

##### 委員名簿

朝比奈典夫	富士宮市域自然調査研究会	小松 實	富士宮建設業協同組合
天野 光一	日本大学理工学部教授	新宅 幸夫	富士砂防事務所長
石川 博之	富士宮緑化事業協同組合	菅原 由美子	菅原由美子観光計画研究所
植松 孝弘	富士建築士会	清 功	富士宮市区長会
内田 賢	富士土木事務所長	力元 東	富士農林事務所長
遠藤 孔二	富士宮市美術協会	西村 徹	静岡国道事務所長
大久保あかね	富士常葉大学総合経営学部教授	望月 功	富士宮商店街連盟
太田 和雄	富士宮花の会	渡井 正二	郷土史研究家
外記 省吾	写真家		

(50音順)